

令和6年度
教育行政執行方針

鹿追町教育委員会
教育長 渡辺 雅人

令和6年第1回定例会の開会に当たり、鹿追町教育委員会の所管行政の執行に関する主要な方針を申し上げます。

人口減少・少子高齢化の進行、ICTやグローバル化の進展などにより、人々の価値観や働き方、生活様式が大きく変化し、従来の知識や経験のみでは将来を見通すことが難しい時代を迎えています。

このような変化の激しい時代にあって、私たちが様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくためには、自らの良さや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と連携協働しながら、持続可能な社会の創り手として成長していくことが大切です。

このために、教育は極めて重要な役割を有しており、社会教育と学校教育を両輪として必要な資質・能力を育む教育行政を推進してまいります。

以下、令和6年度において、重点的に取り組む政策を申し上げます。

第一は、生涯にわたって学び続けるための環境づくりについてであります。

(生涯学習の推進)

「人生100年時代」と称される超高齢化社会が到来する中、生涯にわたって学び続ける事の必要性が益々高まっており、誰もが、それぞれのライフステージに応じて学習機会を選択し学ぶことができ、その成果により自己実現や社会貢献などの活躍ができるなど、生きがいを感じられる地域社会の構築と環境整備が望まれています。

このような中、学校教育においては、本町が取り組んでいる幼小中高一貫教育などにより、将来、様々な分野、地域で活躍するために必要な資質・能力を身に付けるとともに、学校卒業後においても生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働きながら、または引退後も多様な活動により、自己又は地域社会の課題解決のための活動につなげていくことが必要となります。

このため、教育大綱並びに第5次生涯学習中期計画に

基づき、学校や公民館、図書館、美術館、スポーツセンター等の社会教育施設をはじめとする「学びの場」を拠点として、地域の学びを支えていくとともに、ピュアモルトクラブハウスを拠点として青年団体活動を支援し、次代を担う人材の育成に努めてまいります。

また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進や関係機関、各種団体と連携・協働を進め、地域教育力の向上や地域コミュニティの基盤強化を図るとともに、地域人材を有効活用する取り組みを構築し、学習機会の充実を図ってまいります。

(スポーツ・芸術文化に親しむ環境づくり)

スポーツや芸術文化を通じた活動や交流は、地域コミュニティの形成や活性化に大きな役割を果たしており、誰もが各々の年代や関心、適正に応じて、日常的にスポーツや芸術文化に親しむことのできる機会や環境を整えていくことが必要です。

このため、スポーツ・芸術文化を支える人材育成と公共スポーツ施設や文化施設の充実・改善、学校部活動の

改革や地域との協働、地域移行など、町民ニーズに応じた多様なスポーツ・芸術文化の活動の場の整備に取り組んでまいります。

神田日勝記念美術館については、館蔵品の日勝コレクションから厳選し開館30年の歩みを振り返る企画展や、釧路市立美術館と連携し広く道東の芸術を通観する特別企画展の開催など、日勝の画業を顕彰するとともに、来館者の憩いの場としての環境整備を進めてまいります。

図書館については、利用しやすく居心地の良い施設づくりに加え、今後の環境整備の方向性について引き続き検討するとともに、更なる読書活動の充実を図ってまいります。

文化財については、ジオパーク推進課と連携し、昨年9月に鹿追町文化財に指定した「然別火山群オパール産地」の適正な保護と保全に努めるとともに、その学術的な価値などについての調査研究を進めてまいります。

(鹿追高等学校の持続的な発展に向けた支援)

中学校卒業生数の減少など高校を取り巻く環境は大き

く変化し、また、地方創生における高校への期待は益々大きくなっております。

本町において鹿追高校は、社会に人材を送り出す最終段階の教育の場であり、人材育成の面においても町づくりの面においても、その役割は重要であります。

鹿追高校の持続的な発展に向け、地元にも愛される高校づくりと各種支援策の継続及び遠方からの生徒の受入態勢の整備・充実を図り、高校の特色化・魅力化を一層推進してまいります。

(誰一人取り残さない学びの確保に向けた対策)

様々なニーズを有する子どもたちを誰一人取り残さない多様な学びの機会を確保するため、これからの学校教育の基盤的ツールであるICTの更なる活用に向け、学習端末の計画的な更新など環境整備に取り組んでまいります。

不登校児童生徒への支援については、関係者において様々な努力がなされ、児童生徒の社会的自立に向けた取り組みが行われてきているところです。

各学校においては空き教室を利用し、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活ができる環境を整備しており、教育支援センター「ひなたぼっこ」を中核に関係機関と連携するなど、児童生徒やその保護者に寄り添った支援が行われております。

不登校は、「特定の子どものみ特有の問題があることによって起こる」といった考えではなく、不登校は「誰にでも起こりうる」こととして対策を講じることが重要であり、「ひなたぼっこ」と学校、そして地域と学校とが連携し、全ての児童生徒が安心して学べる、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。

第二は、今後の社会環境の変化に対応できる高度な資質・能力を有する人材の育成についてであります。

(幼小中高一貫教育の推進)

郷土を愛し、これからの国際社会をたくましく生き抜くために必要な資質・能力を備えた人材を継続的に輩出することが求められております。

義務教育においては、様々な分野、地域で国際社会の一員として活躍できる人材の育成を目指し、鹿追中学校及び瓜幕中学校での「国際バカロレア」の認定に向け、探究教育の充実、とりわけ生徒が主体となった授業改善を図るとともに、世代間、学校間交流などの更なる推進と一貫教育の頂点である鹿追高校の探究教育についても支援をし、幼児教育から高校までの、主体的・対話的で深い学びを実現する「幼小中高一貫教育モデル」の具現化に取り組んでまいります。

むすびに、生涯にわたる個人の成長を目的とする「学び」は、学校教育、家庭教育、社会教育含む、生涯学習社会の実現が不可欠であります。

本町が持つ自然や歴史、文化、産業など、特色ある多様な資源を生かしながら地域社会全体のウェルビーイングの向上を目指し、本町の教育振興に全力で取り組んでまいります。

町理事者、町議会、町民各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和6年度の教育行政執行方

針とさせていただきます。